

Management



■ サステナブル経営

サステナビリティの位置づけ

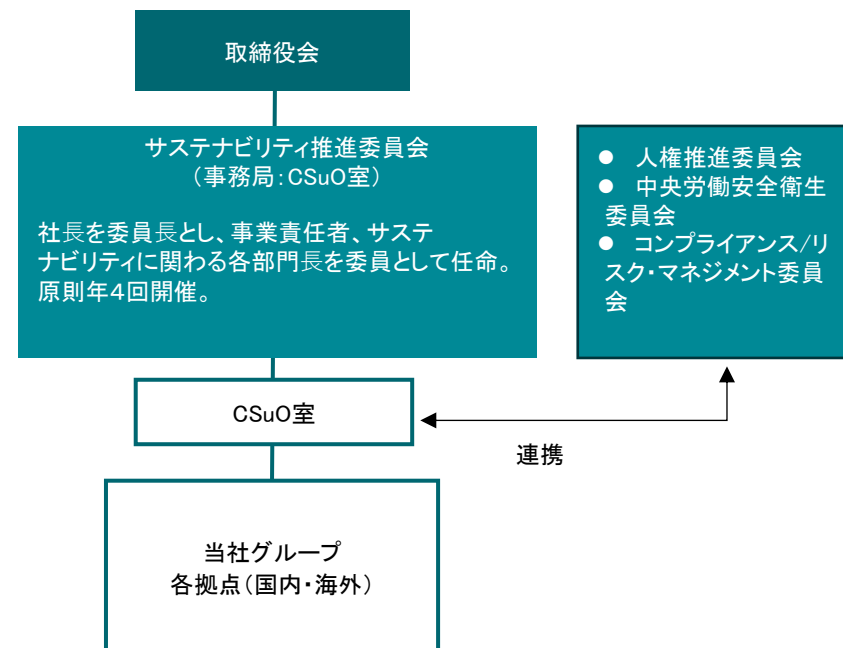
当社グループの企業理念で掲げている「 - 共に未来を生きる - 」の考え方を基盤として、目指す姿を実現することが、そのまま「持続可能な社会の実現」や「社会課題の解決」に繋がることを示しています。また、本業とサステナブル活動を別物にせず、一人ひとりの事業活動自体がサステナブルな取り組みとなるように位置付けるとともに、重点テーマとして「地球との共存 (Planet)」「社会への貢献 (Society)」「社員との共感 (Our People)」を3つの柱として施策を実施しています。



サステナビリティ推進体制

当社グループでは、CSuO室が全社横断的に関与してサステナブルな社会構築への貢献を通じた企業価値向上を目指しています。社長をCSuO (Chief Sustainability Officer) とし、「サステナブル経営」を軸に活動を進めています。

また、環境、エネルギーコスト、人権、サステナビリティデューデリジェンスなど社会的な諸問題の解決に向けて、全社グループの活動状況の共有、方向性の議論、決議をサステナビリティ推進委員会にて行うことで、持続可能な社会を目指しています。サステナビリティ推進委員会は、社長を委員長とし、経営戦略に関わる経営会議メンバーと経営企画本部役員を委員としています。そして、必要に応じて取締役会に付議して、承認を得ています。



■ マテリアリティ

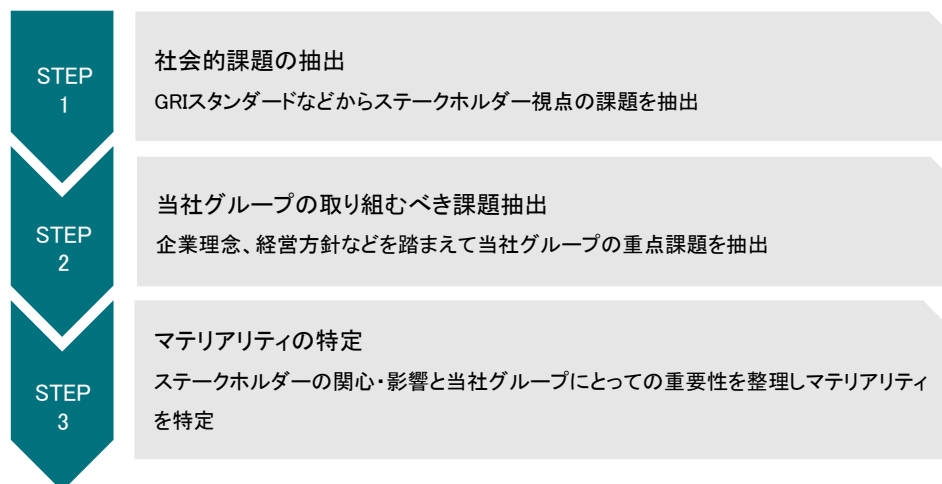
重要課題（マテリアリティ）の特定

当社グループは、サステナブル経営を推進するにあたり、重要課題（マテリアリティ）を特定し、事業活動を進めています。

マテリアリティの特定にあたっては、SDGsやGRIスタンダードなどの国際的なガイドライン、外部調査機関などによる各種調査結果を踏まえ、当社グループの企業理念や経営方針と照らして課題を抽出しました。抽出した課題は「ステークホルダーの関心・影響」と、「当社グループにとっての重要性」として区分け整理し重要度を評価しました。

また、2023年度から欧州のCSRD（Corporate Sustainability Reporting Directive）の基準書であるESRSおよび関連する適用ガイダンス草案に従い、ダブルマテリアリティの観点から当社グループのマテリアリティ評価の見直しを進めています。

マテリアリティ特定プロセス



マテリアリティ評価結果

重要度を評価し、17のマテリアリティを特定しました。また、その中でより重要度の高い課題を重点取り組みテーマとし推進しています。

ステークホルダーの関心・影響	必須 極めて高い		
	コンプライアンス・ガバナンスの徹底、人権の尊重		
	<ul style="list-style-type: none"> 化学物質管理 	<ul style="list-style-type: none"> 資源の効率的利用 エネルギー・廃棄物・水の削減 大気汚染防止 サプライチェーンマネジメント 	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動への対策 製品の安全性・信頼性
	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性保全 	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダー・エンゲージメント 	<ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティ 健康経営・労働安全衛生 新価値創造
高い		<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ コミュニティ貢献 	<ul style="list-style-type: none"> 人材の育成
		高い	極めて高い
当社グループにとっての重要性			

マテリアリティ

重点取り組みテーマ

活動分類			主な取り組み	管理指標(KPI)	SDGs	
地球との共存		気候変動への対応・エネルギーの削減	製品使用時のCO ₂ 排出量削減 事業活動におけるCO ₂ 排出量削減	温室効果ガス排出量 温室効果ガス排出量	 	
		資源の効率的利用	省資源化設計の推進 使用材料の廃棄ロス削減	— 購入量に占める廃棄ロス比率	 	
		大気汚染防止	大気汚染物質排出量削減	—		
		水使用量・廃棄物の削減	水使用量削減 廃棄物削減	水使用量削減率 廃棄物総発生量削減率	    	
	社会への貢献	お客様とのかかわり	新価値創造	社会課題解決に貢献する研究開発 社会課題解決に貢献する商品の提供	— —	 
お客さまの期待に応える製品の提供			品質向上への取り組み	—		
お客さまとのコミュニケーション向上			コールセンターにおける顧客満足度向上への取り組み	—		
地域社会とのかかわり		地域社会との共存	次世代育成の推進 地域共生の推進 福祉支援	— — —	 	
		お取引先とのかかわり	お取引先への働きかけ	サステナブル調達の推進	現地監査社数	      
			株主・投資家との対話	株主・投資家との対話 株主・投資家に向けた情報開示	— —	
社員との共感		自ら新しいことに挑戦する人材の育成	自ら新しいことに挑戦する人材の育成	自ら新しいことに挑戦する制度の導入 社員研修の実施	— —	
	健康意識を高め“Good Life”を目指した職場づくり		メンタルヘルス対策 生活習慣病対策 受動喫煙防止・卒煙に向けた取り組み 食生活対策 女性特有の健康への理解促進 治療と就業の両立支援	— — — — — —	 	
	多様性を活かして社員が柔軟に働ける職場づくり	ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンの取り組み	新任管理職、リーダー層の女性社員新規昇格人数 正規雇用社員(男性)の育児休職取得率、取得日数	— —	     	
		ワーク・ライフ・バランスへの取り組み		—		
		労働組合とのコミュニケーション		—		
	ガバナンス	人権の尊重	人権啓発活動の推進 人権侵害への対応	— 人権デューデリジェンス実施回数	  	
		コンプライアンス・ガバナンスの徹底	コンプライアンス教育の実施	—	 	

■ 外部評価

外部評価

1. 「健康経営優良法人2025」に認定



2. 次世代認定マーク「くるみん」取得



3. 「スポーツエールカンパニー 2025 ブロンズ」に認定



4. 「がんアライアワード 2024(ゴールド)」受賞



5. 「もにす認定」を取得



6. 神奈川県「CHO 構想推進事業所」登録



■ 参画イニシアチブ

参画イニシアチブ

7. 気候変動イニシアティブ「JCI」

The logo for the Japan Climate Initiative (JCI) features the text "JAPAN CLIMATE INITIATIVE" in a bold, sans-serif font, stacked vertically. To the right of the text is a thick, black diagonal line.

8. 国連グローバル・コンパクト「UNGC」



9. 気候関連財務情報開示タスクフォース「TCFD」

The logo for the Task Force on Climate-related Financial Disclosures (TCFD) features the acronym "TCFD" in a large, bold, blue font. To its right, the full name "TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES" is written in a smaller, blue, sans-serif font, stacked vertically.